

蒲原平野の20世紀

—水と土の近代—

2009年7月18日[土] → 8月30日[日]

信濃川、阿賀野川という日本有数の大河川の下流にひろがる蒲原平野の開発は、江戸時代にはじまります。低湿地を開墾した耕地は、たび重なる洪水や水はけの悪さに悩まされ続けました。

20世紀に入ると、人びとは近代的な土木技術を利用して劣悪な地形条件を克服していきます。とくに排水機の導入にはめざましいものがあり、平野の各地に排水機場が設置されていきます。こういった動きは、やがて食糧増産を目指す国家プロジェクトと連携します。第二次世界大戦の戦中から戦後にかけて、巨大な排水機場を中核にすえた土地改良事業が平野の各地ですすめられていきます。その結果、水路や農道で直線的に区画された乾田が広がる田園風景が形成されていきました。

第二次世界大戦後、土地改良事業がすすんだ耕地には、動力を用いた農機具が次々に導入されていきます。そして1950～60年代に蒲原平野は稲作農村地帯としての黄金時代を迎えます。この時代の蒲原平野では、米の生産量上昇を支えるため、地元の農機具メーカーが活発に新しい農機具を開発、製造していました。

本展覧会では、現在わたしたちが目にする田園風景の裏側に、さまざまな困難を克服してきた歴史が存在していることを、実物資料や模型を用いて紹介します。

左上の写真＝堀とハサ木。[亀田郷土地改良区提供]

関連イベント

イベントの詳細はホームページ
(<http://www.nchm.jp>)を確認してください

講演会

「蒲原平野の現在・過去・未来—日本一を実現させた米農業の舞台」

講師 → 望月迪洋(もちづき・みちひろ)新潟市都市政策研究所 主任研究員

日時 → 8月23日[日] 午後1時半～3時

場所 → みなとぴあ2階セミナー室

※講演会終了後、講師と企画展を観覧します。(観覧券が別途必要です)

申込 → 8月15日[土] 必着

(往復ハガキもしくは電子メールに氏名、住所、電話番号を記入して下さい)

参加費(資料代) → 100円

体験プログラム

「足踏み水車をまわしてみよう! キッツォブネを押ししてみよう!」

▶ 土地改良事業以前の農業の代表的な道具である足踏み水車と、湿田で稲を運ぶための道具であったキッツォブネを、博物館の堀で体験するプログラムです。

日時 → 会期中の土曜日 午後1時半～3時(雨天中止)

場所 → みなとぴあ敷地内の堀

対象 → 小学生～一般成人

水に濡れてもよい服装または着替えを御用意下さい。

申込 → 不要

ギャラリートーク

毎週日曜日午後1時半(1時間程度) 企画展示室

参加無料(観覧券が別途必要です)

申込 → 不要

表面の写真: 栗ノ木排水機場の内部と外観(亀田郷土地改良区提供)・蒲原平野の風景(中村修)・田打ちと福刈(塚田一郎)/デザイン: 宗利淳一



昭和二九(三〇)年の耕地整理作業の様子。
[高橋庄一氏撮影]

主な展示の内容

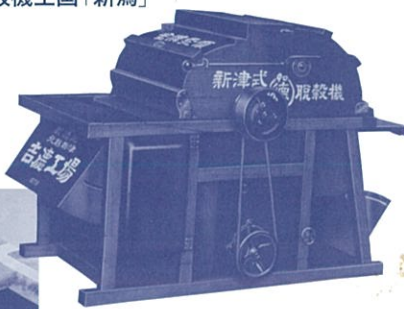
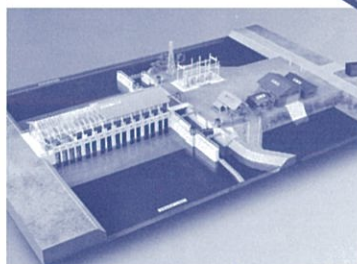
プロローグ—19世紀までの蒲原平野

1. 20世紀初頭の蒲原平野
2. 回転式脱穀機の開発と普及
3. 土地改良事業と大規模排水機場の時代
4. 機械化農業の先進地—脱穀機王国「新潟」

エピローグ—米あまり時代へ

新津式動力脱穀機(写真)。

栗ノ木排水機場(模型)。



湿田時代の田打ち作業。
泥ハネを防ぐテスラを
つけた鍬を使っている。
[塚田一郎氏撮影]



会期 → 2009年7月18日[土] → 8月30日[日]

会場 → 新潟市歴史博物館1階 企画展示室

会期中の休館日 → 7月21日[火]、27日[月]、

8月3日[月]、10日[月]、17日[月]、24日[月]

開館時間 → 午前9時30分～午後6時

観覧料 → 一般 600円、大学生・65歳以上 400円、
小中高生 200円(小・中学生 土日祝日は無料)

→水と土の芸術祭パスポート提示で当企画展・常設展示を観覧できます。

主催

新潟市歴史博物館、新潟日报社、BSN新潟放送、水と土の芸術祭実行委員会

後援

亀田郷土地改良区、西蒲原土地改良区、白根郷土地改良区、新津郷土地改良区、

JAグループ新潟

協力

ほるとカーブドット



〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10

TEL: 025-225-6111

FAX: 025-225-6130

E-mail: museum@nchm.jp

URL: <http://www.nchm.jp>

